

台風7号通過後の行仙宿点検

◇実施日 8月20日(日) 晴

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、梶野照雄、山本直子、志岐敬
5名

台風7号はお盆休みの8月15日に紀伊半島を縦断し、各地に被害をもたらした。勢力はさほど強いものではなかったが、数年ぶりの台風上陸なので、行仙宿の状況を点検に向かった。

午前9時、下北山村役場駐車場に集まって行仙宿登山口に向かう。R425は十津川村側の崩落で通行止めになっていたが、下北山村側に問題が無い事を事前に確認していた。



登山口で



行仙宿に到着



半割丸太を運ぶ

国道は雨で流れ出した落ち葉が多い以外特に障害は無く、いつも通りに四ノ川林道に入る。先日掃除した側溝2ヶ所を確認。手前の側溝は障害物も無く完全に機能していたが、二つ目は掘り出した溝が小石で埋まっていた。

梶野、山本、志岐の3名が先行してモノレールで登る。途中、直径5cmほどの枝がレールを跨いでいた。排除の為モノレールを止めるとエンジンもストップ。再びセルを回すがエンジンが始動しない。エンジンヘッドに水をかけて冷やすと回り出した。モノレール終点から無人でモノレールを降ろす。沖崎、湯川の2名が登山口の半割丸太を終点まで上げるようだ。

台風一過ではあるが気温が高く湿度も高い。行仙宿までの道中で汗びっしりになった。



27℃だった



煙突の隙間を塞ぐ



頂戴した幟

倒木を予想してチェーンソーを持って行ったが、垂れ下がったイバラと10cmほどの折れた枝があっただけで、どちらも志岐さんが処

理した。

行仙宿に着いてハシゴを伸ばし屋根に上がり雨漏りの原因と思われる煙突の隙間を耐火シーリング材で塞ぐ。次に雨が降った後で効果のほどを見てみたい。

山本、志岐のお二人は小屋やお堂周りの清掃、小枝や葉っぱなど、風で飛ばされたものがたくさん落ちていた。小屋の南側や管理棟の周りに置いてある物に飛ばされた後は見られなかった。

20分ほどして沖崎、湯川の2名が到着、湯川君は汗が滝のように流れ落ちていた。7月15日行仙宿に宿泊された竹林院行者の田島さん（埼玉県）から贈られた別注の幟をお堂前に立てる。玄関横の温度計は27℃で、先週より5℃も高かった。



水場は正常

ポリタンク3個を汲み上げる

本日の参加者

早めに昼食を済ませて梶野、山本、志岐の3名で水場に降りる。水場径は枯枝が落ちてはいるが、倒木や損傷はなくいつも通りに水場に着く。思っていたよりも水量は少なく、落石も殆ど無い。ポリタ

ンク3個を満水にして小屋に戻った。

小屋では沖崎さんが薪運び、湯川君はモノレール延伸ルートのアセビを処理するために先行下山していた。古い水を整理し、戸締り確認後行仙宿を離れた。モノレール終点で半割丸太15本程を1〜2に切ってから下山した。

台風7号は中心から離れた場所で強い雨が降り、河川の氾濫や浸水などの被害があったが、行仙宿周辺の奥駈道には異常は見られなかった。しかし風はそれなりに強かったと思われるので、稜線上には倒木もあるのではないかと思っている。

行動タイム

下北山村役場駐車場09:00→09:32 補給路登山口→10:24 行仙宿
↓水場 12:30→13:13 行仙宿 13:30→14:15 補給路登山口

(記：梶野)